

## 別紙

### 株式会社日本クライメイトシステムズ（本社）温室効果ガス削減計画書

#### 1 事業の概要

- (1) 事業所の名称 株式会社 日本クライメイトシステムズ（本社）
- (2) 事業所の所在地 広島県東広島市吉川工業団地3番11号
- (3) 業種 自動車部分品・附属品製造業 3113
- (4) 事業所位置図  
添付1「図」の通り

#### 2 計画の期間

基準年度：2010年

計画年：2011年（平成23年）～2015年（平成27年）までの5年間とする

#### 3 計画の基本的な方向

##### 1 基本的な考え方

『快適な車内空間での豊かなカーライフを演出する為、新しい価値の創造を通じて人と社会に貢献する。』という企業理念の下に、カーエアコンの開発及び製造に係わるすべての企業活動と自然環境との調和を目指し、快適環境の創造と地球環境の保全に貢献する。

##### 2 方針

- 省エネルギー、省資源の推進
- 新エネルギーの導入促進
- 環境にやさしい製品の提供
- 廃棄物の排出抑制・リサイクルの推進
- グリーン購入の推進
- 環境保全活動への積極的な参加
- 社員への環境教育の徹底

#### 4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

##### 【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )		
		平成2年度	基準年度 平成22年度	直近年度 平成23年度
二酸化炭素	電気	2,054	6,810	7,687
	LPG	350	837	729
合 計		2,404	7,647	8,416

##### 【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )		
		平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
二酸化炭素				
合 計				

##### 【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )		
		平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
メタン				
一酸化二窒素				
HFC PFC SF <sub>6</sub>				
合 計				

## 5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO<sub>2</sub>)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)	削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>				
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>				
メタン				
一酸化二窒素				
フロン類				
温室効果ガス 実排出量総計				
温室効果ガス みなし排出量				
総排出量				
目標設定の考え方				

※ 削減率 (b) = (c) / (a) × 100 削減量 (c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：生産台数 (台)

単位：排出量 (t-CO<sub>2</sub>)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成22年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成27年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	7,647	2,722,248	0.00281	7.5	7,073	2,722,248	0.00260
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量	7,647	2,722,248	0.00281	7.5	7,073	2,722,248	0.00260
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)							
目標設定の考え方	年平均1.5% (省エネ法努力義務1.0%以上) のエネルギー使用原単位の改善						

※ 削減率 (d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位 (c) = (a) / (b) 原単位見込 (g) = (e) / (f)

※ 原単位数値 (b) = 熱交換器 (EVA、H/C、COND) 生産台数

## 6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

### ○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	電気使用量の削減	・電気の使用量（原単位）を2015年度までに2010年度比の7.5%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷暖房温度の適正管理</li> <li>・省エネ型設備の更新、導入</li> <li>・電気炉の断熱保温改修</li> <li>・生産の効率化とタクトアップによる省エネ</li> <li>・休憩時間の消灯の徹底</li> <li>・外部省エネ診断の活用</li> <li>・社内省エネ体制強化と推進</li> </ul>
2	LPG使用量の削減	・LPGの使用量を2014年度までに53.1N%以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乾燥炉の断熱保温改修</li> <li>・乾燥炉設定温度の低減</li> <li>・工場暖房供給管理の強化</li> <li>・ボイラ運転(ローテーション)の最適化</li> <li>・蒸気ドレン回収再利用</li> </ul>

※原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

### ○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	項目	数値目標	具体的な取組み
1			
2			
3			

### ○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	廃棄物排出量の削減	廃棄物の再資源化99%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両面コピー、裏面利用等</li> <li>・分別収集及び資源化の徹底</li> </ul>
2	リサイクル率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物の再資源化99%以上</li> <li>・コピー紙使用量2015年度までに約90万枚のレベルにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境配慮型商品購入、グリーン購入の推進</li> <li>・製品の廃棄抑制</li> </ul>
3	その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回のクリーンアップ活動の実施</li> <li>・全従業員への環境教育、啓発活動</li> <li>・ケナフ栽培へプレゼント</li> <li>・チームマイナス6%への参加</li> <li>・地域貢献・エコボランティア活動推進</li> </ul>

## 7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制 → 添付2「環境保全推進体制」の通り

### (2) 実施状況の点検・評価

計画の取組状況の把握・点検及び問題点の検討を行い、環境委員会において定期的に評価・見直し等を行い、継続的な向上を図る。

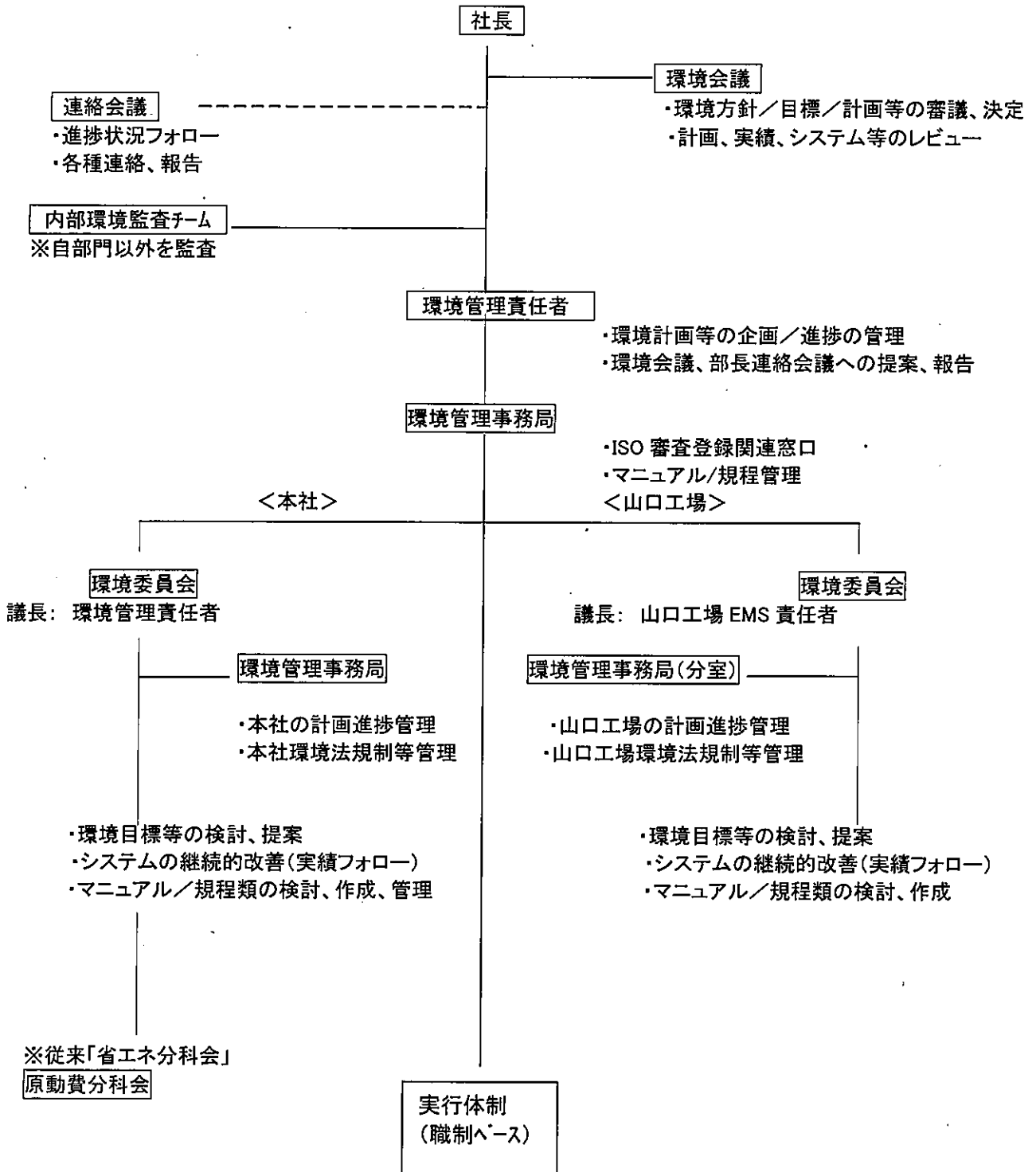
また、毎年度の目標、取組状況、実績、評価内容等についてはHPで公表する。

### (3) 計画の公表

- ・社内イントラでの公表（計画書のPDF化）
- ・当社のホームページ上（温室効果ガス削減に関する目標、取組状況、実績、評価内容）

以上

環境保全活動推進体制



- ・職場毎の環境側面の抽出、見直し
- ・EMP の推進(改善計画／手順, 等 職場内徹底とその実行)